

2009年7月1日発行
 発行人：森本 泰暢
 発行所：〒650-0024 神戸市中央区
 海岸通8神港ビルヂング509
 TEL：078-393-0050
 FAX：078-393-0051
 E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
 URL：<http://www.kobekeio.org/>
 編集：中内 仁・齋藤 洋邦

～～2009年度総会開催～～

是枝 洋介 (平6環)



平成21年5月27日(水)、北野にある神戸外国倶楽部にて、2009年度総会が開催されました。

森本泰暢幹事長による開会宣言の後、佐井裕正会長の議事進行の下、提出された議題がすべて原案どおり承認可決されました。

総会に引き続いての懇親会は、森本幹事長の司会で進められ、五代友和顧問の乾杯の発声、阪本豊起副会長の挨拶を経て、終始和やかな雰囲気で行われました。途中、創立150年記念事業室の岩田光晴課長と慶應大阪リバーサイドキャンパスの小崎由紀子係主任より挨拶があり、岩田課長からは記念事業の概要等が、小崎係主任からは慶應義塾の新しい取り組み等がそれぞれ紹介されました。

神戸外国倶楽部による豪華な料理を堪能しつつ、42名の出席者が一致団結して、新年度がスタートしました。



～～4月例会レポート～～

「慶應大阪リバーサイドキャンパスについて」

宮田 沙織 (平16法)

4月21日午後6時30分より、神港ビルヂング1階会議室にて4月例会が開催されました。(出席者27名)

はじめに森本幹事長より、改めて神戸慶應倶楽部80周年記念パーティーについてのお知らせがありました。また、再来年、当倶楽部を幹事として関西合同三田会が開催される旨、ご連絡がありました。

次に佐井会長より、開会のご挨拶と、80周年記念パーティーにおいて舞妓さんの祝舞が披露されることにつき、祇園甲部と他の花街の舞の違いなどのご説明があり、皆さんの期待がますます高まっているようでした。また、先日シンガポールやベトナムへご出張でいらっしゃった際、街全体に活気があり、特に若い世代が意欲的で好印象を持たれたとのことでした。

そしていよいよ、慶應大阪リバーサイドキャンパス事務室の小崎由紀子係主任よりお話を頂きました。小崎さんは経済学部を卒業後、義塾に就職され、各学事センターや、経営管理研究科(ビジネススクール)、東アジア研究所を経て、昨年7月より現職に就かれています。



以下、小崎さんのお話を簡単にまとめさせていただきます。

まず、慶應大阪リバーサイドキャンパス(KORC)設立の経緯ですが、いくつかの要因が重なって実現しました。第一に、近隣の整備にともない「福澤諭吉誕生地記念碑」の管理をする必要が出てきたこと、第二に、生誕の地であり、適塾で学ぶなど福澤先生ゆかりの地である大阪は、かねてより地元の方々から設立を希望する声を多く寄せていただいていたことに加え、慶應義塾にとっては現在首都圏にある設備等に加えて研究教育等の拠点形成にもっともふさわしい場所の一つであること、

第三に、大阪市中之島および福島エリアの開発構想のなかで、このエリアを国際的ビジネス・文化・ジャーナリズムの拠点としたいということから、慶應義塾大学と大阪芸術大学に誘致があったということです。

次に、KORCの詳細についてです。堂島川岸の堂島リバーフォーラムの3階を大阪芸大と分け合い、事務室とラウンジの他に3つの教室があり、衛星中継やテレビ会議システム等を利用して、通信教育部の説明会・試験・スクーリング、学部の説明会、各種講座（夕学講座のサテライト版、福澤研究センター講座、デジタル産業論）等が行われています。また、大学院メディアデザイン研究科の研究教育拠点としての展開も進められています。なお、大学の学事日程が優先となりますが、教室貸出も行われています。

加えて、その他関連事業についてですが、6月から9月まで国立国際美術館にて『慶應義塾をめぐる芸術家たち』展が、8月から9月まで大阪市立美術館にて『未来をひらく 福澤諭吉展』が、それぞれ開催されます。

小崎さんのお話の後、出席者から質問が集中したのは、KORCの今後の展開、具体的には、ビジネススクールに発展させる計画はあるのか、という点でした。小崎さんによれば、KORC設立検討委員会ではビジネススクールを含むキャンパスでのディグリープログラムの展開の可能性を議論されていたようだが、現時点では大学院メディアデザイン研究科の博士課程の活動拠点の設置が実現しているとのことでした。

また、『未来をひらく 福澤諭吉展』についても意見が寄せられました。この展覧会は「福澤先生の思想と活動の輪の広がり」を様々な資料で紹介するものです。出席者より、中津での少年時代・適塾時代も含めた方が展示に深みが増すのではないかという意見が出されたが、今回は既に展示内容がほぼ固まりつつあり、企画変更は難しいと思うが、貴重なご意見として急ぎ展覧会担当者にお伝えしますとのことでした。

最後に、折角大阪での拠点ができたのですから、慶應義塾の新しい展開の一つとして、ビジネススクールを含めて社会人向けのディグリープログラムの設置に、期待を寄せたいと思います。



～6月例会レポート～

山中 勸 (昭63法)



6月18日18時30分より、神港ビルA会議室において6月度例会が開催されました(参加者19名)。森本幹事長からの連絡事項、佐井会長からのご挨拶の後、元慶應義塾大学商学部教授(昨年9月まで)で、現在嘉悦大学副学長の跡田直澄教授より「小泉構造改革を評価する」と題してご講演いただきました。

跡田教授は昨年11月の西宮市長選に立候補(残念ながら落選)されるなど、地方分権や構造改革に造詣の深い方です。現在は加藤寛氏が学長を勤める嘉悦大学において副学長として大学改革や春の大学院設置の準備等に携わっておられます。

跡田教授は、2002年、当時金融担当大臣・経済財政政策担当大臣であった竹中平蔵氏の依頼を受けて内閣府経済社会研究所の客員研究員となり、「竹中チーム」の一員として政策決定に携わってこられました。

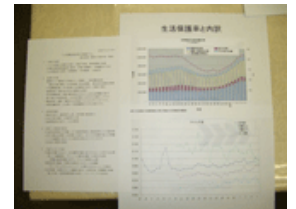
バブル前後の政策失敗や官僚主導型規制経済、日本型経営の限界などを背景として登場した「小泉構造改革」。不良債権処理・公的資金の投入、規制改革、社会保障改革、国と地方の財政改革、郵政改革(民営化)、政策金融改革などさまざまな施策が実行されました。

しかし、巷では「小泉構造改革」が貧困率の上昇など格差の拡大を引き起こした、あるいは社会不安の増大により自殺率の上昇を招いた等の批判が多くなされています。

跡田教授からはこれらの一つひとつについてデータをもとに反論をいただきました。例えば生活保護率が上がっているのは、高齢者世帯の増加と小泉政権以前の制度変更によるものである等、批判の多くは的外れなものだそうです。

さらに「今後のとるべき途」として、完全競争市場に近づけるためのルール作りの必要性や、「投機は経済活動に非ず」として投機資金の締め出しを行う位の規制が必要ではとの提言、民間の知恵を活かすために規制改革を徹底すべきであるとのこともありました。

講演の中では、ここには書けないような裏話?もあり、終了後も地域間格差の問題、中国経済との関係など活発な質疑応答がなされました。まだまだ質問は尽きないようでしたが、定刻の20時過ぎに散会。



「小泉構造改革」とはなんだったのか、野党やマスコミの批判は本当に正しいのか、私自身にとっても見識を深めることのできた大変有意義な講演でした。



《春の慶早ゴルフコンペ》

森本 泰暢 (昭 60 法)

4月3日(金曜日)慶早ゴルフコンペが廣野ゴルフクラブにて開催されました。

神戸早稲田倶楽部より8名の参加をいただき、当倶楽部からは10名が参加し、桜がほぼ満開という絶好のコンディションのなか、プレーと懇親会で大いに盛り上がりました。

対抗競技は各倶楽部の上位6名によるネット合計で競われ、神戸慶応倶楽部が勝利致しました。個人戦では優勝が早稲田の樽本さん、2位私 森本泰暢、3位佐井会長という結果でした。秋は、早稲田主催で9月9日(水)に神戸ゴルフ倶楽部で対抗戦が開催されます。

皆様の参加をお待ちしております。出席者は以下の通りです。

| | | |
|-------|-------|-------|
| 森 隆 | 五代 友和 | 佐井 裕正 |
| 芳川 玲子 | 宮崎 和郎 | 山上 高弘 |
| 城口 隆 | 野田 敬二 | 城根 誠 |
| 森本 泰暢 | | |

以上

会員だより

《フランス聖地巡礼の旅》

浅沼 清之 (昭 36 経)

5月12日から19日まで、フランスのルルド、モンサンミシェル、リジュ聖地巡礼の旅に出かけた。関空を発ち、シャルル・ド・ゴール空港経由、トゥールズ・プラニャック空港へ飛び、ルルドの修道院に3泊、パリに1泊、リジュに1泊、再びパリに1泊し、アムステルダム空港経由帰国する、8日間の旅である。



ルルドでは、日本から、神父3名、シスター1名が同行し、終日、聖ベルナデッタの道を巡礼、沐

浴を行い、夜は、大聖堂前の聖域で「ろうそく行列」に参加、そして、聖堂でのミサと聖歌の毎日であった。

スペインとの国境の町ルルドは、ピレネー山脈の緑豊かな山々に囲まれ、鳥がさえずり、豊かな水量のカブ川が流れ、年輪を重ねた木々を、渡る風が心地よく、旅の疲れを癒やしてくれる。泉に湧きでる水は、ピレネー山脈から、数百年かかって、地下水として、湧き出ているという。

ルルドが、なぜ聖地といわれるのか。それは、ベルナデッタという少女が、1857年2月11日から7月16日の間に、体験した出来事から始まる。聖母マリアがベルナデッタの前に18度にわたって出現し、言葉を交わした、という事実が語り伝えられている。「聖堂を建てるよう、司祭に言いなさい」と、聖母マリアがベルナデッタに言われた後、礼拝堂がいくつも建てられることになった。クリフト(地下聖堂)はマリアの要請で建てられた最初の礼拝堂であるが、1866年に完成している。無原罪の御宿り大聖堂(上部聖堂)は700人収容でき、1871年に完成している。カブ川に沿ったマツサビエル洞窟は、ベルナデッタの前に聖母マリアが出現して以来、人々が祈りを捧げる場所となっている。マリアの指示によってベルナデッタが掘った所に湧出した泉は、病が癒えた例が無数にあり、カトリック教会から正式に「奇跡」として認定された事例も70弱ある。認定のためには、医学的な調査が極めて厳格であると言われている。つまり治癒は確かで、明らかで、医学的には説明不可能であることを証明しなければならない。150年の歳月が過ぎた今も、各国から老若男女、障害を持つ人等、多くの巡礼者がここを訪れて喜びに満ちている。聖母マリアの出現から100年を記念して、1958年に完成した聖ピオ10世地下大聖堂に入ると、世界最大規模の建造物の一つであり、2-3万人を収容できる大聖堂である。ノアの箱舟をイメージしたデザインで、地下にあるため静けさと安らぎの世界に吸い込まれていくように感じられた。現在のルルドの村は人口約2万5千人であるが、4-10月の半年の巡礼期間に300万人を超える人々が訪れると聞く。

「聖なるか ルルドの水に 風光る」



ルルド巡礼を終えて、ルルド駅から、T・G・Vで6時間かけてパリに移動し、翌朝バスで5時間かけてモンサンミシェルに向かう。ノルマンディー地方南部、ブルターニュとの境に近いサン・マ

ロ湾は、ヨーロッパでも潮の干満の差が激しい所として知られ、このため修道院が築かれた小島は、かつては満ち潮のときには海に浮かび、引き潮のときには陸とつながっていた。19世紀に道路が造られ常時島へ渡れるようになったが、これが潮流をせき止め、砂が堆積し、島の周囲が砂洲化し、これがかつての姿に戻すべく地続きの道路を取り壊し、新たな橋を架けるべく国家的プロジェクトが現在始まっていた。

この島はもともとモン・トンプ(墓の山)と呼ばれ先住民が信仰する聖地であったが、8世紀になってオベール司教によって大天使ミカエルを奉る聖堂が造られたのが歴史の始まりである。10世紀にベネディクト会の修道院が建てられ、カトリックの聖地として多くの巡礼者を集めた。イギリスとの100年戦争の時代は、島全体が英仏海峡に浮かぶ要塞の役割を果たしており、イギリス軍が残して行った大砲が残っていた。フランス革命時には修道院が廃止され、監獄として使用された時期もあるが、1865年から修道院として復元されている。

「天使棲む モンサンミシエル 春の潮」

モンサンミシエルを後にして、バスでリジュまで2時間半。フランスの農村風景がどこまでも続く。

夕方着き、宿泊して、翌朝リジュの巡礼にでかけた。聖マリア・テレジアが祈りを続けたペテロ大聖堂、聖テレジア巡礼聖堂、テレジアの生家等を巡り、



カルメル会聖堂でミサに与かる。ミサを終えたフランス人神父が近寄ってきて、言葉は通じなかったが握手を交わすことになった。

午後バスで3時間ほどかけてパリに向かい、パリ市内を少し見物し最後の夕食会となった。翌朝帰国のためシャルル・ドゴール空港に向かう。

今回の巡礼の旅は、連日早朝から一日が始まるため、ご一緒した同級生の斎藤毅さんとも夜に杯を酌み交わす機会が残念ながら持てなかったのであるが、同行された神父、巡礼者同士の出会いと交流が印象深い、充実した旅であった。

《健康アドバイス 前篇》

一特定健診・特定保健指導に関連した私見ー 間森 坦(昭38医)

平成20年4月から、糖尿病などの生活習慣病の発症を予防することを目的にした、特定健診(メ

タボ健診)が始まりました。日本内科学会などが、メタボリックシンドロームの診断基準を、①ウエスト径85cm以上(男)、90cm以上(女)を肥満と判定し、②空腹時血糖110mg/dl以上、③中性脂肪150mg/dl以上、④血圧130/85以上であり、これら4項目のうち、①の肥満が必須で、その他の2項目を満たす状態としました。

肥満は、インスリンの作用で、脂肪細胞に脂肪が増え、細胞肥大を起こした状態です。腹腔内臓器の脂肪細胞に脂肪が増えた「内臓肥満」は糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、高血圧症などを発症し、更に、虚血性心疾患(狭心症や心筋梗塞)、脳卒中に進展するようになるため、内臓肥満の発症予防が大切であります。

慶應大学病院の消化器内科に在籍の頃、現在、消化器内科の名誉教授である、石井裕正君(昭和38年卒の同期)に継続して、肝疾患時の糖代謝異常をインスリン分泌や遊離脂肪酸の面から研究しました。その結果、肥満のある肝疾患症例では、脂肪肝や糖尿病の合併を高率に認めました。

35年前に、神戸で開業した頃は、肝疾患で最多のC型肝炎の診断法がなく、効果的な治療もありませんでしたが、最近では、確定診断ができ、抗ウイルス剤やインターフェロン療法により、高率に完全治癒ができるようになりました。しかし、食生活の欧米化、運動不足、アルコール多飲により、脂肪肝やアルコール性肝障害が、年々増加してきました。また、糖尿病が年々、増加を続け、わが国の糖尿病患者は1500万人以上になっています。合併症による失明が、年間3000人以上、医療費が月に50万円以上かかる新規透析患者が12000人以上、下肢切断患者が10万人以上であり、糖尿病の早期発見と悪化予防が必要です。

東洋医学には未病(未だ病になっていないときから、将来おこるかもしれない病気を予防しなければならない)という概念があります。メタボリックシンドロームの診断基準が、男性のウエスト径が85cm以上とか、空腹時血糖110以上の基準が厳しいとの意見もありますが、早期発見して、悪化予防を重視した特定健診であり、私は、この基準値でよいと思っています。特定健診問診表の中に、喫煙習慣と飲酒量の設問がありますが、タバコと酒は、多くの病気の原因になるため、厳しい事後指導が大切であります。

(後編は喫煙と飲酒にクローズアップ

します。ご期待ください。)



同好会だより

KKJC

近藤 正 (昭39商)

数年前にジャズ同好会として発足したKKJC (神戸慶應ジャズクラブ) は、当初は数名のジャズ愛好の同志が、ささやかに集まって、ジャズを聴きながら飲んだり、食べたりしておりましたが、現在では類が類を呼んで40名を越えるメンバーになりました。日本のジャズは神戸からはじまったと言われますが、北野坂辺りには、気の利いたライブハウスがたくさんあり、神戸はジャズを楽しむには最高の街です。

メンバー間には、メーリングリストによる情報交換ができるので、格好なライブがあれば、そのネットワークを利用して、仲間が集まって楽しんでいます。

今後の予定は、10月初旬に恒例の「神戸ジャズストリート」に参加して、KKJC特製の「三色旗帽子」をかぶってパレードに参加します。

10月下旬には、昨年同様浜松へ遠征して、泊りがけでジャズと観光を楽しむ予定です。

そのほかいろいろ活動しておりますので、ジャズがお好きで入会ご希望の方は近藤までご連絡ください。(会費は不用です。)

KKJC世話人 近藤 正
(ludy007@kcc.zaq.ne.jp)



イーゼル会

《今月の絵》



天木 明 (昭40商)

イーゼル会では、今年秋に第3回グループ展の開催を予定しています。

新会員も募集中です。第2・4木曜に例会をしていますので、一度覗いてみてください。

読書会

《神戸慶應倶楽部読書会のおしらせ》

5月29日(金)の読書会は、「学問のすすめ」第8編(我心を以て他人の身を制すべからず)第9編(学問の旨を二様に記して中津の旧友に贈る文)の2編を輪読しました。そのあと最近の経済問題・政治問題を肴に年代物のウイスキーや福野君提供のおいしい日本酒を楽しみました。参加者は、堀切、浅沼、藤井、古淵、六拝、左川、福野、阪本、池田、宍戸、野田の11名であり、会を重ねるごとに増えています。

今回は7月14日(火)18:30から、阪本豊起副会長の事務所(建隆ビルII3階)で、「学問のすすめ」第10編から始めます。同書輪読の後は、ワインを片手に時事放談を楽しみながらの勉強になります。

会場は神戸慶應倶楽部のある神港ビル(旧居留地8番)の西隣(東京海上)の更に西隣(旧居留地6番)の全面ガラスの建隆ビルIIの3階です。レトロな商船三井ビルの東隣です。18:30以降は正面玄関が閉まるので地下通用口からお入りください。「学問のすすめ」(岩波文庫)を持って気軽においでください。但し、お酒とつまみの準備がありますので、前回の出席者以外の方は阪本まで事前にご連絡頂ければ幸いです。

読書会世話役 阪本豊起

会員の輪

《オーディオのこと》

市川 義人 (昭57経)

音楽評論家の黒田恭一氏がこの5月に亡くなられた。今でもラジオのスイッチを入れるといつもの声がきこえてくるような気がする。

黒田氏は70年代から主にステレオサウンド誌でオーディオ評論家としても活躍されていた。

当時ステレオサウンド誌を愛読していたが、音楽評論家の三浦淳史氏の随筆を心から楽しみにしていた。三浦氏はイギリスの作曲家や演奏家の紹介に尽力されていた。「エピソードがすべて」という言葉を好まれた氏の著書は数冊手元にあるけれど、単行本で読むよりもステレオサウンド誌での連載を読むほうが挿絵があつたりしてはるかに風情がある。

1970年代のステレオサウンド誌に執筆されていた

た五味康祐、岡俊雄、瀬川冬樹、岩崎千明、山中敬三、井上卓也、長島達夫、長岡鉄男、黒田恭一各氏は鬼籍に入られた。当時の執筆陣でいまでも活躍されているのは多分、菅野沖彦、上杉佳郎、柳沢功力各氏くらいであろうか。

就職して3年目にして買った念願のスピーカーはYAMAHAの生真面目な音のスピーカーであった。音には満足できなかったが買い替えはしなかった。当時欲しかった製品は金額の桁が違っていたから。そうこうしているうちに仕事が忙しくなったこともあってオーディオに対する興味も徐々になくなっていった。

黒田恭一氏の訃報を聞いてオーディオと音楽だけが生活であった昔のことをふと思い出してしまった。私のオーディオも物悲しい色調を帯びてきたようである。

《細マッチョ》

矢形 幸之助 (平3法)

この3月27日にジムに入会した。今までジムに登録したことは何度かあるが、いずれも通うことなく、3か月後には退会していた自分が、今は週に2回にペースで通っている。

そのジムとは知る人ぞ知るゴールドジム！そうあのマッチョ集団の巣窟（そう表現するとスタッフは怒るであろうが・・・）。半数以上がそのような人達で埋められているのは事実である。

中には、鏡に向かってポーズを取っている人もチラホラいる。

しかし、全く憧れはない。

あくまで目指すは細マッチョである（マッチョじゃスーツが着られない）。

理想にはほど遠いが、最近体つきが変わってきたのは、実感できる。

いや、体つきだけではない。気付けば駅の階段を歩いてのぼっている。息も切れもしなくなった。

それもこれもマシンでトレーニングし、25分ランニングを続けてきた成果である。

先日、マスターズで4位入賞した片山晋呉選手も「心技体という言葉があるが、健全な肉体という土台の上に、技が乗り、心が付いてくる」というようなことを言っていた。この言葉に、土台を作る根に十分な栄養（食事）が必要であることを付け加え、今日もジムに通う。

《初めまして》

後藤 平八郎 (平19経)

経済学部平成19年卒業の後藤平八郎と申します。本年3月より実家のある神戸に帰ってくることに

なり、この度神戸慶應倶楽部に入会させて頂きました。兄である後藤大悟より、神戸慶應倶楽部について紹介され、5月27日の総会に急遽出席致しました。総会では佐井会長を始め諸先輩方から非常に温かく迎えて頂き、楽しく時間を過ごさせて頂きました。

学生時代は體育會柔道部に4年間所属しておりました。柔道は中学校より始めており、今でも時間を見つけては道場に通っています。趣味はスポーツ。社会人になってからは特にゴルフにハマっており、練習を重ねた結果やっと人並みにラウンド出来るまでになりました。

まだまだ若輩者ではございますが、今後とも何卒ご指導の程宜しくお願い致します。

普段、会の行事に出席できない方、遠隔地の方も誌面に登場して参加してください。皆さんの投稿をお待ちしています。

BRB編集部 kobekeio@dream.ocn.ne.jp

80周年記念式典のご案内

2009年9月2日（水）18:30から神戸慶應倶楽部設立80周年記念パーティーを神戸ポートピアホテルで開催します。

70周年には記念誌を発刊しており、その後はBRBの充実により、記念誌はまた次の機会が良いのではないかと思います。また寄付につきましては、慶応義塾150周年で皆様のご厚志、篤志により目標金額も達成いたしました。

神戸慶應倶楽部80周年は会員が楽しみながら設立を祝うということに重きをおいて企画しました。

企画内容は祇園より芸妓舞妓さん地方さん9名を呼んで祝舞を披露してもらおうという内容です。各テーブルに一人芸妓舞妓さん地方さんに着席してもらい、食事と一緒にするという形を考えてます。

会費としては、会員10,000～12,000円程度と考えております。詳細につきましては、幹事会で打合せをしていきます。

上方舞の中でも、京都固有の特色を持つ井上流を特に『京舞』と呼びます。

井上流は、寛政年間(1789～1801)に近衛家の舞指南役を勤めた井上サト(初世井上八千代)が宮廷文化を基盤に創始しました。

以来ほぼ2世紀の歴史を持ち、祇園甲部の正式唯一の流派です。

今や京都の年中行事となっている「都をどり」を支えているのも京舞井上流です。

トピックス

150周年関連企画展として、6月から慶應義塾や福澤先生をメインテーマとした展覧会が、大阪で相次いで開催されます。神戸慶應倶楽部では前売り券や無料券を一部ご用意しておりますので、ぜひご連絡ください。

各展覧会は詳細は下記をご覧ください。

「慶應義塾をめぐる芸術家たち」

日程：6月20日（土）～9月23日（水・祝）

場所：国立国際美術館

2008年に創立150年を迎えた慶應義塾ゆかりの美術家、批評家、詩人らの作品による展覧会を開催します。国立国際美術館と慶應義塾の所蔵品を中心に、イサム・ノグチ、瀧口修造、西脇順三郎、飯田善國、駒井哲郎らの作品および資料の展示を予定しています。

（国立国際美術館 HP より抜粋。）

<http://www.nmao.go.jp/japanese/b2.html>

「未来をひらく 福澤諭吉展」

日程：8月4日（火）～9月6日（日）

場所：大阪市立美術館

本展覧会では、福澤の多方面にわたる先導的な活動を捉えなおし、その遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書、および福澤の門下生が収集した美術コレクションや慶應義塾ゆかりの名品などを体系的に紹介します。

東京、福岡で開催された本展覧会は大阪で締め括られます。最後ならではの展示品も登場することです。

（<http://www.fukuzawa2009.jp/>より一部抜粋。）

～～今後の行事予定～～

| | | |
|--------|-----------|----------|
| 7月14日 | 読書会 | 建隆ビルⅡ |
| 7月24日 | サマーパーティー | 神戸銀行倶楽部 |
| 8月 | 例会はありません | |
| 9月2日 | 80周年パーティー | ポートピアホテル |
| 10月25日 | 関西合同三田会 | （奈良三田会） |

詳細はその都度お知らせいたしますので、毎月のメールマガジンでご確認ください。

～7月例会サマーパーティー（予告）～

日時：2009年7月24日（金）18：30～21：30

場所：神戸銀行倶楽部

住所：神戸市中央区江戶町 91-1

電話：078-331-2766

会費：会員 9,000円

会員家族 高校生以上 9,000円

小・中学生 5,000円

小学生未満 2,000円

ビジター 10,000円

恒例のオークションを開催いたします。お一人様必ず一品以上の出品をお願いします。

◇出欠の締切りは7月17日（金）です。

◎8月は例会はありません

～倶楽部設立80周年記念パーティー～

日時：2009年9月2日（水）18：30より

場所：神戸ポートピアホテル

会費：未定

～事務局よりお願い～

◆例会等にご出席の会員様はお食事等の準備の都合がありますので、必ず事前に事務局までお申し込みをお願いします。なお、当日のキャンセルにつきましては会費全額を頂きますのでご了承ください。

◆住所・電話番号・メールアドレスの変更がある場合は、必ず事務局にお知らせください。

編集後記
○神戸で猛威をふるった新型インフルエンザ。一時は街中がマスクだらけになり、ど
うなることかと案じられました。ようやく
く落ち着きを取り戻してきました。これか
ら季節はいよいよ夏本番を迎えます。神戸
にもみなぎる活気を期待したいものです。
そして今年には倶楽部設立80周年。我々社中
のパワーで倶楽部とこの神戸の街をおおい
に盛り立てて参りましょう！！（N）
○先日知った経済の語源、経国済民。当時
は政治政策の意味として使われていたこと
です。今後の回復に向けて、経済・政治と
もに国民の立場にたった再建を願いたいも
です。（洋）

神戸慶應倶楽部維持会加入のお願い

神戸慶應倶楽部では、クラブ会計状態の維持安定を図るため維持会を設け、

趣旨にご賛同いただける本倶楽部会員を倶楽部維持会会員としています。

会員の方には一口につき毎年度 1,000円を拠出頂き、何口でもご加入いただくことが出来ます。

趣旨ご理解いただき、是非、お一人でも多くの方の維持会へのご加入、口数の増加をお願い致します。

尚、この神戸慶應倶楽部維持会は慶應義塾維持会とは異なりますことを申し添え致します。